

平成 16 年 8 月 6 日

千葉市長 鶴岡啓一 殿

神戸市中央区北本町通 1 丁目 1 番 28 号
J F E 建材株式会社
取締役社長 谷 一 浩

千葉市中央区川崎町 1 番地
J F E スチール株式会社
東日本製鉄所 千葉地区
専務執行役員 内 田 繁 孝
東日本製鉄所長

JFE スチール(株)東日本製鉄所岸壁 (0 バース) における

管理土の積替え計画について

拝 啓

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、この度、JFE 建材(株)旧習志野工場の土壌浄化工事において発生する管理土をセメント原料として船舶を用いて搬出するにあたり、JFE スチール株式会社東日本製鉄所岸壁 (0 バース) において管理土 (建設発生土) の積替えをすることとなりましたのでその積替え計画をご報告いたします。

敬 具

計 画 概 要

取扱品目	JFE 建材(株)旧習志野工場の土壌浄化工事に伴い発生する土砂であり、特定有害物質であるふっ素及びほう素が環境基準値を超過した土砂 (以下 管理土)
取扱品目詳細	管理土の内訳 ふっ素 (F) : 約 46,000 m ³ 0.8mg/L < F 24mg/L 約 12,000 m ³ 24mg/L < F 89mg/L (第二溶出量基準以上) ほう素 (B) : 約 51,000 m ³ 1.0mg/L < B 30mg/L 約 11,000 m ³ 30mg/L < B 355mg/L (第二溶出量基準以上) 溶出量基準値 F 0.8mg/L , B 1.0mg/L 第二溶出量基準値 F 24mg/L , B 30mg/L
取扱内容	管理土の積替え
搬出先	太平洋セメント(株)の各セメント工場 (北海道、九州、その他) (セメント原料として再利用を行う)
取扱数量	約 120,000 m ³
一時仮置き量	1,500 m ³ ~ 2,000 m ³
事業期間	平成 16 年 8 月 1 日以降約 12 ~ 13 ヶ月
概 要	ダンプトラックにて管理土を岸壁まで運搬し、一時仮置、積替えて船舶にてセメント工場へ搬出する。仮置き期間は 1 ~ 2 日である。 ・ダンプトラック受入台数 : 60 ~ 100 台 / 日 ・船舶 (699t クラス) : 2 ~ 3 隻 / 週 ・環境対策、詳細積替え計画等は別紙 (積替え計画表参照)

積 替 え 計 画 表

積 替 え 施 設 (コンクリート土間)		通常時における漏洩、飛散、拡散防止の諸対策		
概 略 図		<ul style="list-style-type: none"> 管理土積み 	<ul style="list-style-type: none"> JFE建材(株)旧習志野工場内 ダンプに積み込み、搬出時にダンプ1台毎に重量を計量し、管理土管理表を交付する 	
		<ul style="list-style-type: none"> 運搬途上 	<ul style="list-style-type: none"> 搬入時の運搬ダンプの荷台(あおり付き)はシートで覆い管理土の飛散を防ぐ JFEスチール(株)東日本製鉄所へのダンプの出入り口は別々にする等、国道16号の交通渋滞を避ける 荷降ろし後は、泥落とし装置によりタイヤに付着した管理土等を除去する(除去後の残存管理土はガット船に積み込み搬出する) 	
使用岸壁	<ul style="list-style-type: none"> JFEスチール東日本製鉄所 (0バース 国道16号より約 1,000m 検収小屋設置) 	<ul style="list-style-type: none"> 管理土積替え及び飛散防止 	<ul style="list-style-type: none"> 岸壁作業責任者は管理土管理表を確認し、荷降ろし場所を指示する コンクリート土間上でホイールローダにより集積する ガット船船長は管理土管理表を確認し、積み込む 仮置き管理土には適宜散水し、乾燥防止及び飛散防止を図る(散水に使用する水が不足した場合はタンクローリーで補給する) 管理土の流出の恐れがある場合(1回当たり20mm以上の降雨)はシートで管理土を覆う 作業時間以外は管理土をシート等で覆い飛散防止を図る 防塵ネットは定期的に点検し、不具合箇所はそのつど整備する 	
		<ul style="list-style-type: none"> 排水処理 	<ul style="list-style-type: none"> コンクリート土間上で管理土よりの浸出水は排水側溝より沈砂ピットに集水する また、少々の降雨により管理土に触れた排水も同様に沈砂ピットに集水する 集水した排水は適宜管理土に散水し、乾燥防止及び飛散防止を図る(循環式とし外部には出さないが、余剰水が発生した場合はガット船に積み込み搬出する) また、沈砂ピットに堆積した管理土もガット船に積み込み搬出する 	
構造形式 (詳細図 参照)	<ul style="list-style-type: none"> コンクリート土間: t=150~200mm 土間面積 1,560m² 排水側溝: W100*H(50~100) 土間周囲 L 200m 集水、沈砂ピット: 2箇所設置 (3.0m*4.0m*1.5m)*2基 = 36.0m³ 土堰堤: 鉄板 H=900 L=50m(既存) 新設堰堤 H=900 L=36m 防塵ネット: H杭基礎 H=5.0m L 100m 鋼製樁3段 H=5.0m L 50m (いずれも下部3.0mは万能鋼板、上部2.0mは防塵ネット) 	<ul style="list-style-type: none"> 安全対策 連絡体制その他 	<ul style="list-style-type: none"> 積替え場内では搬入車両の運行ルート(入路、退出路)を指定する ホイールローダの運転手は周囲に注意を払うとともに移動半径内は立ち入り禁止とする ガット船の積み込み半径内は、全ての作業員の立ち入り禁止とする。 事故等の緊急時、岸壁作業責任者はすみやかに連絡体制に基づき連絡する 	
		<ul style="list-style-type: none"> 漏洩・飛散 拡散防止の諸施設 	<ul style="list-style-type: none"> 土間コンクリート構造とし、排水側溝、沈砂ピットを設置する ピットは1回当り降雨量23mm(3m x 4m x 1.5m x 2ヶ所 ÷ 1,560m² = 23mm)まで湛水対応 既存の鉄板堰堤及び新設堰堤により管理土の海側への流出を防止する 周辺には防塵ネット(H=5m 万能鋼板3m、防塵ネット2m)を設けて、管理土の飛散を防止する 散水装置(エンジン式ハイウォッシャー等)により適宜散水を行い、乾燥を防止し飛散防止を図る 車両の退出時には泥落とし装置を設け、タイヤに付着した管理土を除去する(泥落とし装置) 	<p style="text-align: center;">強風時における漏洩、飛散、拡散防止の諸対策</p>
積込方法	<ul style="list-style-type: none"> ガット船にて直接積込する 	<p style="text-align: center;">大雨時における漏洩、飛散、拡散防止の諸対策</p>		
連絡体制	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>・土地所有者 JFEスチール株式会社 総務部 総務室 043-262-2213 環境エネルギー部環境防災室 043-262-2248</p> <p>・発注者 JFE建材株式会社 千葉工場 総務部 043-262-4111</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>・施工者 清水建設(株)習志野作業所 047-470-3188</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>岸壁作業責任者</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 大雨時 (大雨注意報発令時) (1時間 30mm) (3時間 60mm) (24時間 90mm) 	<ul style="list-style-type: none"> 大雨注意報発令時は管理土の搬入、積み込み等全ての作業は行わない 残置された管理土を含め土間全体をシートで覆い仮置き管理土へ雨水の浸入を防止する 事前に大雨が予想される場合は搬入を中止、ガット船を計画的に手配し全量搬出する 	
		<p style="text-align: center;">緊急時における漏洩、飛散、拡散防止の諸対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大雨時 排水ピットが溢れる恐れがある場合(ピット容量の80% = 28m³)はバキューム車で水を汲み出ししJFE建材(株)千葉工場の排水ピットへ搬入し、水処理施設(JFEスチール(株)生浜総合排水処理設備)で処理する。 	
備考				

